

静岡県知事賞

毎日は小さな幸せが沢山！

静岡県立浜松西高等学校中等部 一年

岩本 柚季



作文を書くにあたって、親切ってどんなことを言うんだっけ。

あれ、私の毎日に親切ってあるんだろうかと、不安が押し寄せてきた。そこで、母に思い切って相談してみた。

「親切ってなに？」
すると、

「じゃあ、あなたはいつも、どんな親切してるの？」

と逆に尋ねられた。本当に困った。日々の中で私はどんな親切をしているだろう。

親切とは、なにか困っている人を助けてあげることだと思っ

ている。なんとなく、バスでお年寄りに席を譲ってあげたり、小さな子供がいるお母さんを助けてあげたり、とか思いつくことはあるけれど。コロナ禍で、人とほとんど接触しない毎日。家で勉強して、バイオリンとピアノを弾いて、読書をして、テレビを見て寝る。同じような日々が続いている。感染者が増えていくと、部活動もなくなり、ほとんど外出できなくなっていく。そんな中で、私は親切な日々を送れているのだろうか。

「なにもできてない。」

と母に告白した。なんだかとても寂しい気持ちになった。

すると母は驚いた顔をして、不思議なことを言い出した。

「あなたは、わりと親切な毎日を送っていると思うけどなー。だって、いつも家族を思い遣って、過ごしてくれてるじゃない。」

そう言われてもピンと来なかった。そんな私を見て、母はいくつもの私の毎日の親切を教えてくださいました。帰宅後、妹達を家に入れてから自分が入ること。いつも甘えてくる妹達に優しく教えること。母が忙しいときは何も言われなくても察して動くこと。御近所では、回覧板が濡れないように置き場所を選ぶこと。ごみがカラスによって荒されていたら、片付けること。

「誰かが、してもらって助かった、嬉しかったと思うことが、できるあなたは毎日親切を無意識にできていると思うよ。人に心を砕けてあげられるあなたは親切な人だと思うわ。」

はっとした。長い雨が降った後に、ぱつと虹が出たようなそんな気分だ。

そういえば、この前雨上がりに、二つ虹が重なって出ていて、嬉しくなつてすぐに、妹達を呼んだ。二人ともすごく喜んでいました。

いつの間にかずっと独りぼっちでいた気分になつていたけれど、全然独りじゃなかった。私がワクチンの副反応で苦しんで

いる時も、四歳の妹がお姉ちゃん大変！と、ぬいぐるみと共にそばにいてくれた。十歳の妹も心配して、あれこれと世話をしてくれた。妹達の気遣いを感じ、温かくなった。私は沢山の姉妹の親切の中で、コロナ禍でも幸せな気持ちにさせてもらっていることに、気付けた。

